由利本荘市立由利中学校 校報　　「チーム由利中　心ひとつに」

根堀台だより

平成29年10月31日
第 68 号

校 訓「 進 歩（文 ）」「 健 康（武 ）」「 協 力（道 ）」

文科省公開研究会
英語教育強化地域拠点事業

沢山の先生に囲まれて

意欲的に発表しています

振り返りもすばらしい

１０月２７日（金）、文部科学省指定「英語教育強化地域拠点事業」公開研究会が本校を会場に行われ、多くの先生方が参加下さいました。

この文部科学省の事業は、由利小学校・由利中学校・由利高校の３校が平成２６年度から４年間の研究指定を受けたもので、今回の研究会はその集大成でもあります。２０２０年度から小学校で完全実施される次期学習指導要領ですが、平成３０年度から小学校では英語が「教科」としての先行実施されることになります。この事業は次期学習指導要領改訂に向けた先進的な取組を行うとともに、新教材作成の参考とするためのものです。

また、グローバル化への対応ということで、「英語力」と「積極的に英語を使おうとする態度」の育成のために、英語でコミュニケーションする体験を積み上げていくことが望まれています。小学校での学びをベースに、中学校・高校でその力をどう発展させていくかが中学校の課題と言えます。

公開研究会では１Ａが Program7「The Wonderful Ocean」の学習をベースにして、「Smile Aquarium　に生息する生物について英語で対話をし、海洋生物についてより深く知ろう」という学習課題で、一人一人自分の好きな海洋生物を取り上げ、英語でやりとりを行いました。子どもたちは選んだ海洋生物にニックネームを付け、大きさや重さ、どんな所にいるのか、何を食べるのか、安全な生き物なのかなど、特徴をしっかりと押さえて意欲的に発表していました。

当日は８０人近い先生方やＡＬＴの方たちに囲まれ、１年棟ホールが人でいっぱいになっての授業となりましたが、１年生は昨年由利小学校で大きな研究会を体験してきているだけあって、まったく動じることなく、いつも通りの態度で授業に取り組んでいました。特に、学習活動の中には、他の中学校ではまだ学習していない文法や単語なども沢山ありましたが、それを使いこなしながら積極的にコミュニケーションしていました。

研究協議会の様子

研究授業後に、「研究協議会」があり、最後に秋田大学教授〇〇〇〇〇先生、国際教養大学准教授〇〇〇〇先生、県中央教育事務所指導主事〇〇〇〇先生から指導助言を頂きました。〇〇〇先生からは「研究指定を受けて大変実りの多い４年間であった。」、〇〇先生からは「授業準備がよく、ＴＴでのやりとりがよかった。」、〇〇先生からは「全校体制で、教科の枠を越えての取組がすばらしい。」とお褒めの言葉を頂きました。

しかし、課題も幾つか上げられました。特に、ある中学校ではＡＬＴに教科書を読ませたものをＣＤにして事前に全生徒に配付して家庭学習に活用しているという事例を挙げ、子どもの基礎力を養うためには授業だけでなく家庭学習の充実を図ることが大切であるというお話がありました。子どもが自信をもって学習に取り組むための準備や教材開発の必要性を強く感じました。

本校の研究指定は今年度で終わりますが、これからもこの研究指定の成果を由利の子どもたちの「学力向上」に生かしてきたいと思います。

由利の子どもたちが「なりたい自分」を目指して積極的に学ぶ姿と高い資質、そして由利中教職員の「夢あきらめない」頑張りが高く評価された公開研究会でした。

明日１１月１日は あきた教育の日

明日１１月１日は、「あきた教育の日」です。秋田県教育委員会では、秋田県発展の原動力は「人づくり」であり、その「人」づくりは教育が担っていくもので、県民一人ひとりが教育に関心をもち、学校、家庭、地域、企業などが連携・協力しながら子どもたちを育てていくという共通の認識に立って、子どもたちがやがて県内外で秋田の発展を支える「人」となることを願い、「教育立県」を目指し、「あきた教育の日」を制定したものです。

１１月１日に限らず、１１月１日を前後して１０月から１１月にかけての期間に、教育庁各課室、教育関係機関、市町村教育委員会、学校、民間団体などの教育に関連する各種行事やイベント（「みんなの登校日」等）を集中的に開催します。本校では「由利中祭」や「ゆりまつり協賛校内駅伝大会」、「ゆりの根教室」などを、「あきた教育の日」の関連行事としても位置付けています。

最近余り使われることがなくなったように思いますが、「手塩に掛ける」という言葉があります。辞書を引くと「心を尽くして育てたり、世話をしたりすること」「情熱をもって育てる、作る」とあります。「手塩」とは元来食膳に備えられた少量の塩のことです。この塩は自分で味加減を調整するものであり、それから人任せにしないで、自ら直接面倒を見ることを言うようになりました。「手塩にかけて育てた子」「手塩にかけた盆栽」などのように「みずからいろいろと世話をして大切に育てる」という意味で使われています。

「駅伝大会」や「ゆりの根教室」を例に挙げると、由利地域では保護者だけでなく、「地域全体で由利の子どもを育てていこう」という思いが見られます。「由利の子どもたちのためなら、いつでも一肌脱ぐぞ」という雰囲気が地域全体にあり、それが当たり前のことのように感じている子どもたちが多いのが現状です。機会を捉え、このような「地域の思い」がいかに特別なものであるか、子どもたちに伝えていきたいと思います。